

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ベンチエ省ビンダイ郡の貧困世帯が持続的農業を実践し、食料自給を改善しながら、現金収入を得られるようになる。
(2) 事業内容	<p>2012年7月26日より2013年1月27日までに実施した活動を時系列に沿って記述する。</p> <p>【2012年7月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キックオフ会合：チョウフン村（85名）、ダイホアロック村（78名）にて開催。 ・ 月例会合：チョウフン村（13名）、ダイホアロック村（10名）にて開催。村づくり委員会の発足とキックオフ会合の準備、活動計画づくりを開始。 <p>【2012年8月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キックオフ会合：フォーロン村（82名）、タインフック村（53名）、ロンホア村（88名）、ビンダイ郡人民委員会にて開催。ビンダイ郡では在ホーチミン日本国総領事館より日田総領事をはじめ、海外NGOを支援するPACCOM、ベンチエ省人民委員会・農業機関、ビンダイ郡人民委員会・農業機関代表、17村の代表など50名が参加した。 ・ 月例会合：フォーロン村（2回23名）、タインフック村（16名）、ロンホア村（2回25名）、チョウフン村（10名）、ダイホアロック村（9名）にて開催。 ・ アヒル肥育研修：ダイホアロック村（63名）、チョウフン村（102名）、ロンホア村（100名）、タインフック村（78名）、フォーロン村（57名）にて開催した。 ・ 家庭菜園研修：ロンホア村（102名）、タインフック村（73名）、チョウフン村（85名）、ダイホアロック村（56名）、フォーロン村（57名）で開催。 <p>【2012年9月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月例会合：タインフック村（11名）にて開催した。 ・ アヒル農法研修：タインフック村（32名）、チョウフン村（36名）、ロンホア村（22名）にて開催した。 ・ アヒル肥育研修：ロンホア村（16名）にて開催した。 ・ 家庭菜園研修：チョウフン村（15名）にて開催した。 ・ ミミズの肥育研修：タインフック村（52名）、ダイホアロック村（70名）、チョウフン村（80名）、ロンホア村（87名）にて開催した。 ・ 「持続的農業と自然資源管理」研修：タインフック村（46名）、ダイホアロック村（48名）、フォーロン村（44名）、チョウフン村（51名）、ロンホア村（53名）にて開催した。また、ベンチエ省にて農漁業普及センター職員58名を対象に実施した。 ・ アヒル肥育とアヒル農法に取り組む424世帯へ順次、ヒナを配布した。 <p>【2012年10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月例会合：タインフック村（11名）、チョウフン村（11名）、ダイホアロック村（10名）、ロンホア村（11名）にて開催した。 ・ 家庭菜園研修：ロンホア村（21名）にて開催した。 ・ ミミズの肥育研修：フォーロン村（41名）、ロンホア村（44名）、チョウフン村（16名）、タインフック村（21名）にて開催した。 ・ 引続きアヒルのヒナを配布した他、348世帯へミミズを配布した。 <p>【2012年11月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月例会合：ロンホア村（10名）、チョウフン村（11名）、フォーロン村（6名）、タインフック村（13名）、ダイホアロック村（5名）にて開催した。各村から9～10月の多雨により、リスクを考慮してアヒルやミミズの肥育に参加しなかった世帯があると報告があった。そのため12月より希望者へ研修を行い、ヒナを貸し出すこととなった。 ・ 各村で活動に参加している貧困世帯の実践状況についてモニタリングを実施。 <p>【2012年12月】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月例会合：ダイホアロック村（7名）、ロンホア村（9名）、チョウフン村（10名）、フーロン村（4名）にて開催した。 ・ アヒル農法研修：チョウフン村（18名）、ロンホア村（17名）にて開催した。 ・ アヒル肥育研修：フーロン村（33名）、チョウフン村（28名）、ロンホア村（21名）にて開催した。 ・ ミミズの肥育研修：フーロン村（28名）、チョウフン村（22名）、ロンホア村（21名）にて開催した。 ・ 経験交流会：ダイホアロック村（22名）、タインフック村（2回32名）、ロンホア村（2回56名）、チョウフン村（2回47名）、フーロン村（19名）にて開催し、上手に実践している世帯の経験を他の世帯へ伝えた。 <p>【2013年1月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アヒルの肥育とアヒル農法に取り組む91世帯へヒナを、62世帯へミミズを配布した。
<p>（3）達成された効果</p>	<p>中間報告の時点までに得られた「期待される成果」の達成度について、以下に記す。</p> <p>（イ） 持続的農業研修に参加した貧困世帯の70%が内容を理解する。研修ごとに理解度テストを実施し、成果を測る。</p> <p>⇒現時点でアヒル農法は67.3%、ミミズ肥育（アヒル農法実践世帯）は47.8%、アヒルの肥育64%、ミミズ肥育（アヒル肥育実践世帯）は56.5%、家庭菜園は59.6%である。</p> <p>（ロ） 持続的農業研修に参加した貧困世帯の50%が研修で学んだことを実践する。モニタリングでの聞き取り、および世帯調査によって成果を測る。</p> <p>（ハ） 持続的農業研修で学んだことを実践した貧困世帯の20%が食料自給を改善し、現金収入が増加する。モニタリングでの聞き取り、および世帯調査によって成果を測る。</p> <p>⇒2012年12月から2013年3月にかけて経験交流会やモニタリングを通じて、実態を把握するための調査を実施しており、結果は完了報告書にて報告する。</p> <p>（ニ） 村づくり委員会がアヒル・鶏銀行を適切に管理・運営する。月例会合の議事録とモニタリングにより成果を測る。</p> <p>⇒対象5村のうち、2011年度に経験を積んでいる2村では、村づくり委員会が、アヒルが死んだ世帯に対し、原因をきちんと調べ、公平で透明に対応する努力をしており、銀行を適切に管理・運営しようと努力している。2012年より活動を開始した3村は、リスク基金の設置やアヒルが死んだ世帯への対応が遅れる傾向がある。他の2村の事例から学びながら、アヒル・鶏銀行を適切に管理・運営できるよう、各世帯の事例をきちんと調べて月例会合で協議を行いながら、能力向上を図る。</p> <p>（ホ） ベンチェ省ビンダイ郡内の対象村以外の村が関心を持ち、実践を希望する。キックオフ会合と評価会合の議事録より成果を測る。</p> <p>⇒キックオフ会合の後、対象5村の他、3村より同様の活動を実施して欲しいという要望が出された。各村の現状を把握した上で、具体的に検討を進める。</p>
<p>（4）今後の見通し</p>	<p>2013年2月に対象5村で上手に実践している世帯の経験を他の世帯に共有するための経験交流会を開催する。同時に現状について把握するための調査とモニタリングを実施する。2月から3月にかけて、乾季に生じるアヒルの病気予防を目的とした研修を実施する。また、アヒルの肥育とアヒル農法の実践を希望する世帯へ研修を行う他、アヒルのヒナを貸し、ミミズを支援する。3月からモニタリングを強化し、村づくり委員会と共に各世帯の状況把握に努める。5月は評価の準備として調査票等を用いて各世帯の課題や成果を把握する。6月には調査結果をまとめ、7月に対象5村とビンダイ郡にて評価会合を開催し、事業を終了する。8月には会計監査を終え、活動報告を提出する。</p>